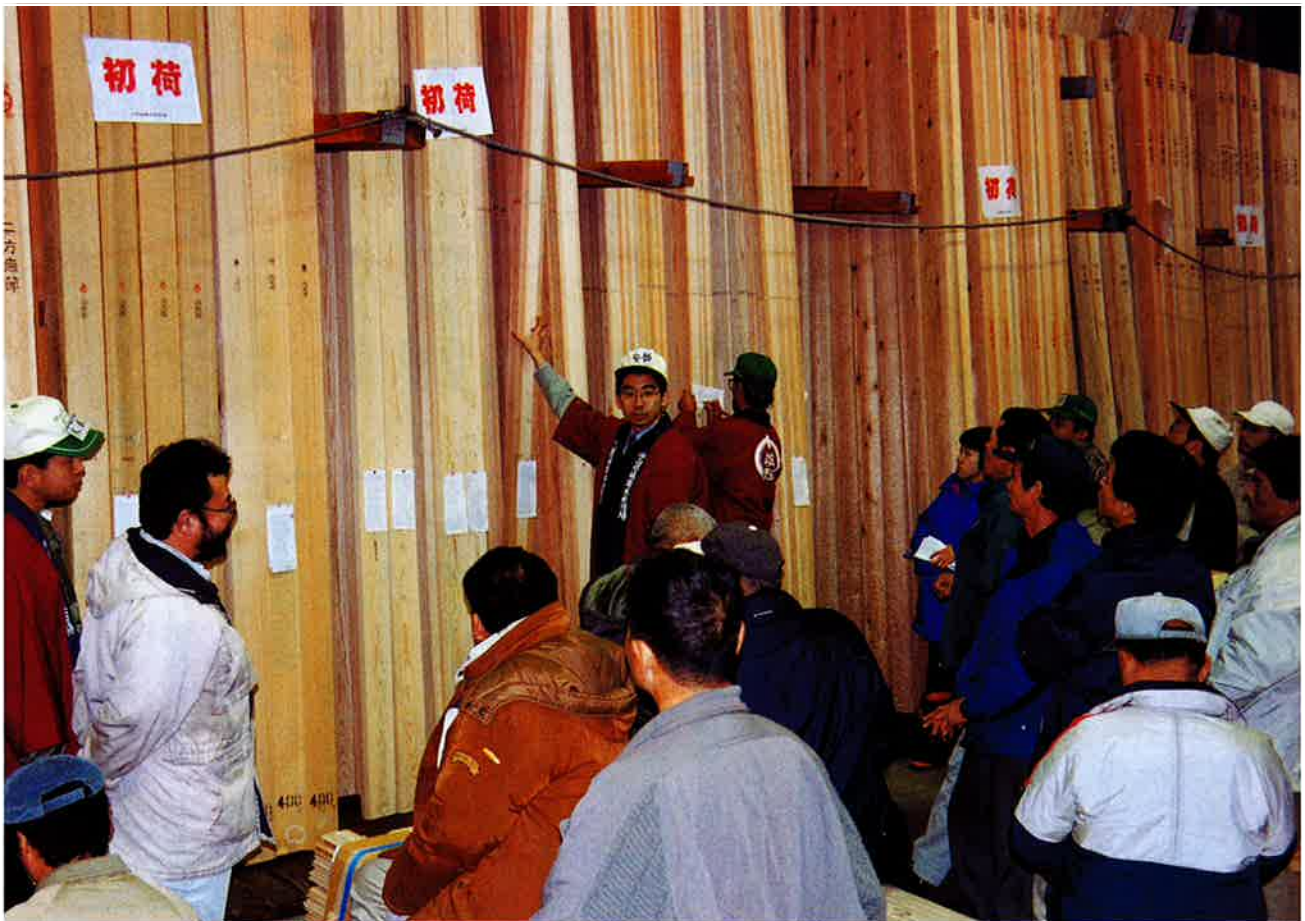


森林やまがた

No. 59

2002 2月



初市：(株)山形城南木材市場



第53回全国植樹祭

感じていますか 森があるしあわせ

目次

初市	1	現地ルポ	
第53回全国植樹祭記念		炭焼き体験教室を開催	8
全国林業者大会の開催概要について	2	花粉アレルギー情報提供	
2001 森林づくり体験	3	システムの開発	9
緑の少年団活動を振り返って	4	山形県の名水・湧水	10
森は共に学ぶ教室	5	山形県の古木・名木	10
県産きのこの品質を競う	6	木と暮らしを考えるフォーラム	
「山形県産材フェアを開催」	6	開催のご案内	11
資源循環型森林施業団地化モデル		山形県治山・林道研究発表会のご案内	11
事業の実施状況について	7	木材市況	12

第53回全国植樹祭記念

全国林業者大会の開催概要について

平成十四年六月一日に金山町で実施される第五十三回全国植樹祭の記念行事として開催される全国林業者大会―第三十一回全国林業後継者大会―の開催計画概要がまとまりましたので紹介します。

◆大会内容

◎開会式典

◎記念講演

講師 岩手県立大学 学長 西澤 潤一氏

演題 森林は人の命の源

◎森林づくり体験発表

・コメンテーター

明海大学教授 森 巖夫氏

・発表者(テーマ)

村山 征彦氏(森林オーナーとしての森林づくり)

村山市教育委員会(中学生による森林づくり)

安部 政昭氏、船山 政蔵氏(山形県の木材利用)

加藤 周一氏(産直住宅による森林づくり)

◎大会宣言等

加藤 周一氏(産直住宅による森林づくり)

加藤 周一氏(産直住宅による森林づくり)

加藤 周一氏(産直住宅による森林づくり)

加藤 周一氏(産直住宅による森林づくり)

加藤 周一氏(産直住宅による森林づくり)

◆交歓の夕べ

大会終了後に会場を「パレスやくわ」に移し全国の林業者との交流会を開催

◇関連催事等

・山形県の森林づくり等紹介コーナーの設置

・木材・間伐材製品、林産物の展示紹介コーナーの設置

・「山形まるごと市」(地場産品の展示販売等)

・真室川町立歴史民族資料館での林業関連資料等の展示

・真室川町立歴史民族資料館での林業関連資料等の展示

・真室川町立歴史民族資料館での林業関連資料等の展示

・真室川町立歴史民族資料館での林業関連資料等の展示

・真室川町立歴史民族資料館での林業関連資料等の展示

・真室川町立歴史民族資料館での林業関連資料等の展示

・真室川町立歴史民族資料館での林業関連資料等の展示

・真室川町立歴史民族資料館での林業関連資料等の展示

・真室川町立歴史民族資料館での林業関連資料等の展示

・真室川町立歴史民族資料館での林業関連資料等の展示

・真室川町立歴史民族資料館での林業関連資料等の展示

・真室川町立歴史民族資料館での林業関連資料等の展示

・真室川町立歴史民族資料館での林業関連資料等の展示

・真室川町立歴史民族資料館での林業関連資料等の展示

・真室川町立歴史民族資料館での林業関連資料等の展示

「山形の魅力」を満喫していた

「山形の魅力」を満喫していた

「山形の魅力」を満喫していた

「山形の魅力」を満喫していた

「山形の魅力」を満喫していた

「山形の魅力」を満喫していた

「山形の魅力」を満喫していた

「山形の魅力」を満喫していた

「山形の魅力」を満喫していた

「山形の魅力」を満喫していた

「山形の魅力」を満喫していた

「山形の魅力」を満喫していた

「山形の魅力」を満喫していた

「山形の魅力」を満喫していた



◆開催時期
平成14年6月1日(土)
【開会式は全国植樹祭の前日】

◆開催場所
・全国林業者大会 真室川町中央公民館
・交歓の夕べ 真室川町パレスやくわ

第53回全国植樹祭記念行事
全国林業者大会
―第31回全国林業後継者大会―

2001 森林づくり体験

—山仕事の楽しさ—

二〇〇一年、公社では五月二十六日から十月二十七日までに十一回の森林づくり体験を行いました。

参加いただいた方々も中学生から高齢者まで様々な皆様に森林づくりへの手助けをしていただきました。

今年の特徴としては、

- ① 作業の安全指導
- ② 刈払機、チェーンソーの使い方
- ③ 保育全般にわたる作業種を取り入れた林内作業

体験のプログラムも例年とは少し違ったものになってきました。

自分を取り巻く自然環境や体験地の地域的特徴、作業をする

上の留意事項、使用する用具の安全な取扱い等々、よりわかりやすく心がけました。

機械類の使い方については、参加者も真剣そのもの。最初は緊張した面持ちで取り組んでいた方々も、なぜか少したつと笑顔になっている。ひよつとして、林業機械は使っているうちに楽しくなってしまうような道具なのか？

三番目の保育全般の林内作業では、雑草に被いつくされた林内の下草を刈るところから始まり、つる切りや除伐、間伐、枝払いなどを複合的に組み合わせ体験してもらいました。

長年手入れのされていない森林の中に入るのは、だれしもち

よつと勇気のいるものです。

いざ作業といっても、みんな最初はなかなか林内へ入るのをためらっている様子で、思い切った水にでも飛び込むかのよう

に藪の中に入っていきます。それでも、そんな場所ほど作業の成果は歴然と現れ、整然とした林内を見渡せば、達成感も格別のものとなります。

そのご褒美なのかどうか、お

いしそうなきのこがよく顔をだしてはみんなをよろこばせてくれました。

そのほかに、雪害にあった保育間伐材を使って、ごみを集積する、ごみステーションを作る

と題して、伐倒、玉切り、搬出皮むきまで二日間をかけた村山市での体験は、初めてのプログラムでした。

今年の夏にはその搬出材を使って、どんなごみステーションができるのかとても楽しみなところ

です。「森林の手入れをしているのに、何故かいろんな楽しみをもらえる。山仕事ってちょっと不思議だな？」そんな感想が漏れた年でした。

〔財〕山形県林業公社



森林づくり体験年間参加者306名

活動の少年報告



緑の少年団活動を振り返って

山形市立西山形小学校

四年 高野佳苗

わたし達の西山形小学校は、緑いっぱいのかみ山のおもとにあります。夏には、とかみ川や観察池にホタルが光ります。

緑の少年団には、三年生以上の九十五名が入っていて、主に三、四年生が自然に親しむ活動をしています。

五月に入団式と、シイタケの菌打ちをしました。木にドリルであなをあけてもらって、そこに菌をたたいて打っていきました。菌を打つ時、ちょっと曲がってしまいましたが、だんだん上手にできるようになってきました。菌を打つ時、これがシイタケの種なのか、不思議だなと思いつつ仕事をしました。

今年は、雨がふらなくて、シイタケが育つか心配しました。

みんなで当番を決めて水かけをしました。わたしは、朝の水かけ当番になりました。ジョウロに水をくんで、坂を上ってうら

山に置いてあるシイタケの木にたっぷり水をかけてあげました。大きなシイタケが出てくるのを楽しみにしています。

六月、双葉小学校と黒森山ウォークラリーをした時、森の先生から木や自然のことをくわしく教えてもらいました。わたし

の知らなかった木の名前や森の事を楽しく教えてもらいました。森の先生が山に行った時、かまでクマを追いはらったそうで

す。その話を聞いて、ここにもクマが出るのかなとちょっとドキドキしました。

午後から急に雨が降ってきて木の下で休みながらウォークラリーを続けました。大雨になったので、木の下ににげてほっとしました。



ウォークラリー

十月には、県民の森で植樹祭があり木を植えてきました。班の人と、スコップを使って、ていねいに植えていきました。「かれないで、元気に育ってね」

と思いました。今度県民の森に行った時、植えた木が元気かどうか見てみたいです。



植樹祭 かれないで元気に育ってね。

植樹祭の昼食の後みんなで草の上を転がって遊んできました。周りを見たら、一面の紅葉でした。自然の中で遊んだら、気分そう快で楽しかったです。

緑や自然は、わたし達を楽しませてくれる大切なものです。これからも、緑や自然を育てる活動をしなが、自然を守っていききたいと思います。



森は共に学ぶ教室

森林インストラクター
米沢市 山口 昭雄

環境問題に関する記事が新聞に載る日が多くなった様に思う。ちよつと前、小学校の環境問題

をテーマとした総合学習の場に参加する機会があり、多くの

子供達が緑や森林に関心を持ち、私は、実に様々な質問責めにあつた。彼等の鋭い目と、素朴な質問にはいつも学ばせられる。

そして、彼等が社会に出たとき、緑や森林にもつと関わりを持つてくれるだろうと思うと一人で嬉しくなつてしまった。

私がこうしたことに関わりを持ったのは、林業に関わる職業にいる事が大きな要因である事は当然だが、同時に、高度成長時代に起きた多くの公害や、自然破壊等と言われる事が社会問

題となつたとき、更に私の目は森林へと向いた。そして林業が、単に森林資源の伐採によつて成り立っているのではなく、今注目されている

里山の役割のように、自然と共生する、或いはさせなければならぬと考えられるようになってきた。以来今日まで「〇〇森林浴の集い」「〇〇を見る会」等々と

称して参加者を募り、そうしたことを毎年何回も実施してきた。参加者は小学生の時もあれば、

若いグループから中高年の人達まで様々である。野山に入り、木や草花等の話をしながら歩く。

ある時、高齢のご婦人から、この草知つてる？と問われ、アオサだよと答えた。これ以上のことは知らなかつたので、逆にこれ食べる？と問いかけた。「これネエ、私ら十五、六歳の頃背負えないほど採らされたものだ。何にしたと思う。この皮を剥いで繊維を取り、布を織つて軍用のパラシュートにしたんだ」と話してくれた。私はすぐにアオサを手に取り皮を剥いでみた。なる程丈夫な繊維の皮が簡単に



弥兵衛平湿原の高山植物観賞会(吾妻山)

取れ感心した。同時に、今度の企画は「アオサで布を織る」をやつてみようとした。

豊かな山の懐に入り、沢山の木々や草花と出会う。春の山菜や木の芽から、秋の木の実とキノコ、その見分け方や食べ方まで。そして、そこに棲む色々な虫や鳥や動物たち。山での話題は尽きることがない。今日も又カラフルなウェアとザックを背負い、

多くの人達が森にやつてくる。森の豊かさや優しさの中で、環境と林業を考えてくれる人達が

さらに多くなつてくれることを願いつつ、私もまた森へ出かける。

「いにしえの交易路豪土峠を訪ねて(高島町)」



「いにしえの交易路豪土峠を訪ねて(高島町)」

県産きのこの品質を競う

―第十五回山形県きのこ品評会開催―

培体験の展示発
表もあり、注目
を集めておりま
した。

去る十一月二十六日、二十七

日の両日にわたり、新庄駅のゆ

めりあにおいて、山形県きのこ

振興会主催の第十五回山形県き

のこ品評会が開催されました。

この品評会は、県産きのこの

品質、栽培技術の向上と、生産

意欲の高揚を図るために昭和六

十二年度から開催しており、生

しいたけ、なめこなど、県内各

地域から出品されたきのこ七品

目、九十八点について、厳正か

つ慎重な審査が行われました。

審査の結果、最優秀賞三点を

含む二十点の入賞者が選ばれ、

受賞者への表彰が行われました。

また、当日の展示会には、地

元、新庄市立日新小学校三年二

組児童による菌床しいたけの栽

(最優秀賞)

◆農林水産大臣賞

なめこ(ビン栽培)の部

田中 豊(鮭川村)

◆林野庁長官賞

生しいたけ(菌床栽培)の部

渡部 茂雄(小国町)

◆山形県知事賞

生しいたけ(原木栽培)の部

二戸 孝一(最上町)

〔県森林課〕



▶農林水産大臣賞

「山形県産材フェアを開催」

↳首都圏での県産材製品の普及に向けて

屋・桁で同じく
三万円の値がつ
き完売しました。
県産材フェア

「山形県産材フェア」が、東京

中央木材市場(千葉県浦安市)で

十一月十四日に開催されました。

県産材フェアは、県内ブラン

ド材のものがみ杉・西山杉・庄内

あつみ杉を主体とした製材品を

首都圏で展示・即売会を開催し、

消費地で山形県産材の普及を図

るものであります。

七回目となった今年は、人工

乾燥材を中心に各地域の主要な

製材工場十一社から製材品百九

十二㎡が出品されました。買い

方は、年末の需要を見込んで百

九十六人が集まりました。

景気の低迷が影響して取引は模

様眺めの商いで始まりましたが、

常連客の引き合いにより、間柱・貫

の特一等で平均四万二千円、母

終了後には、問屋および市場関係

者との意見交換会も行われ、市場

関係者から、景気の低迷により

厳しい状況が続いている中であ

るが、今後とも、山形県産材と

して特徴ある製品の提供をお願

いしたいとの要請がありました。

県としても、首都圏など大消費

地での県産材製品の普及推進に

努めてまいります。〔県森林課〕



セリ状況

資源循環型森林施業団地化 モデル事業の実施状況について

今年度からスタートした資源循環型森林施業団地化モデル事業は、「個別分散的な森林施業の集約化」、「作業路・山土場等生産基盤の整備」、「間伐材の市場への安定出荷」、「市場性の高い葉付き乾燥材の生産」の四つをポイントとして、間伐実施及び間伐材利用を効率的に進め、森林資源の循環利用を通して、収益の期待できる森林づくりを実現するものです。

初年度の第3四半期を終えての遂行状況を報告します。

Ⅰ 団地設定及び計画概要

今年度は県内七市町で四箇所モデル団地を設定、それぞれの森林組合が別表の事業計画を策定し実施しております。

別表 平成13年度 資源循環型森林施業団地化モデル事業計画と遂行状況

団地名	事業主体	団地面積 (ha)	利用間伐 (ha)		作業路整備 (m)		山土場(箇所) (㎡)	
			年度計画	12月現在※	全体計画	12月現在※	全体計画	12月現在※
川土居	西村山林組合	465	15	15.00	2,200	600	(3) 900	(-) 1
最上	最上広域組合	1,152	25	25.07	16,500	7,745	(47) 9,220	(10) 1,900
米沢	米沢地方組合	847	17	15.28	12,500	2,580	(10) 4,000	(21) 420
飽海	飽海地方組合	1,134	25	25.00	2,000	1,925	(30) 12,000	(10) 1,480
計		3,598	82	80.35	33,200	12,850	(90) 26,120	(41) 3,800

※12月末現在、事業主体概算報告によるもの

Ⅱ 個別の取り組み

① 最上団地の状況

最上広域森林組合が事業主体となり、収益性の高い森林づくりを目指した「最上型収益性間伐」を実行確実なものとするため、作業路網整備に力をいれているのが特徴的です。

事業の成果が評価され、団地内所有者の青木氏が今年度の「県間伐コンクール」で知事賞を、組合が国の「間伐・間伐材利用コンクール」で林野庁長官賞を受賞しました。

② 飽海団地の状況

飽海地方森林組合が事業主体となり、林内での作業場所や集積場所となる山土場の作設を重点的に実施し、一般的に不利とされる間伐による葉付き乾燥材の生産を進め、より市場性と収益性の高い間伐の実施に地域をあげて積極的に取り組んでいます。



間伐材搬出状況(飽海団地)

Ⅲ まとめ

各団地では、利用間伐に向けた特徴ある取り組みが実施され、施業と一体化した作業路や山土場などの整備により、間伐コストの軽減が図られ、間伐による中間収益が確保されたことは、今後、所有者の森林施業に対する意欲の向上と地域林業の発展に繋がるものと期待します。

〔県森林課〕

現地ルポ

炭焼き体験教室を開催

平成十三年十二月二十日、米沢市内で一般県民を対象に「炭焼き体験教室」を開催し、置賜一円から女性八名を含む十九名の参加を得た。

午前の部は、関町在住の指導林家黒田明雄氏の白炭窯で炭焼き作業の体験である。黒田氏による木炭・炭窯の講話と炭の掻き出し実演の後、参加者が窯出し作業を行った。窯口からは千℃に達する真っ赤な炭が姿を現し、初めは腰が引け気味だった参加者も、防熱エプロンとヘルメットに身を固め、出し鉤を手に奮闘し、全員が作業を体験した。六十kg余りの白炭を出し終えた後は、引き続き炭材の窯入れ作業である。作業の間には

様々な質問が相次ぎ、予定時間をオーバーする一幕もあった。途中、黒田氏から炭窯であぶ

った栗と馬鈴薯のお振舞いがあり、香ばしさが好評を博した。外は六十cmほどの積雪。集落

から少し登った所にある炭焼き小屋の中は、終始、消し粉の湯気と談笑に包まれていた。



窯出し作業

午後の部は、白布の米沢市森林体験交流センターに会場を移して再会した。

最初の座学では、木炭の歴史・特性・用途と注意点・再生可能なクリーンエネルギーとしての性格などを、熱心にメモを取りながら学んだ。

続いてミニ炭俵の製作を体験した。菅すげをゴザ状に編んだ俵、リョウブの枝を輪にしたタガ、小口止めにはクロモジの細枝を使った。小口からは約1kg詰め

のナラの白炭が顔を覗かせ、全て天然素材である。消臭効果も兼ね備えた洒落たインテリアになるとあって、真剣に製作に取り組んだ。閉講後、黒田氏から一人ひとりに観賞用のお花炭がプレゼントされた。杉材の器に盛られた竹や松毬の見事な焼き上がりには感嘆の声が上がった。こうして

炭焼き体験教室は盛会裡に日程を終了した。



ミニ炭俵づくり

今回の体験教室は、一般県民から森林や林業に対する理解を深めていただく目的で、県林業普及指導事業の一環として実施したものであるが、参加者からの熱心な質問や、募集人数に達した後も参加希望者からの問い合わせが続いたことなど、木炭への関心の高さがうかがわれた。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

県森林研究研修センターからのお知らせ 花粉アレルギー情報提供システムの開発

◆はじめに

春先、花粉症にお悩みの方も多いことでしょう。本県では二十%以上の県民が発症者と推定されています。このため衛生研究所、農業試験場との共同研究により、花粉情報提供システムの開発に取り組んでいるので、その概要をお知らせします。

◆開発されるシステム

スギの開花や花粉の飛散には気温や風が大きく関与し、花粉は上昇気流などに乗り数十km単位で移動します。このためシステムでは気象予測モデルを開発し、そのなかでスギ分布や開花予測式を演算させ、花粉飛散開始日などの情報を提供するものとしています。



スギ雄花

花粉情報はスギのほか、イネ科植物も対象に平成十五年春からインターネット、テレビ等により提供されます。また、その種類も従来の当日、翌日、週間予報のほか、予防治療のために必要とされている一ヶ月予報もするなど全国的に例のない先進的なシステムとなります。

センターでは次の二課題に取り組んでいます。

◆スギ花粉発生源のデータベース化

スギ分布を面的なデジタル情報としてまとめたデータベースが民・国有林にはないことから、環境省が日本全土の植生分布をデジタル情報として公開した「自然環境情報」からデータベースを編成しています。データベースでは林齢を十五年生までと十六年生以上に区分し、十五年生まで花粉発生林分の面的な把握を可能としています。

◆スギ開花ステージ及び花粉飛散量の予測

開花条件と気温の関係を調べるため、人工気象室でスギ雄花を定温で培養し人為的に開花させることや、県内各地に設置した調査林分で開花の確認と林分のなかの気温調査をしています。

これらから得られたデータを解析することにより開花予測などが可能となります。また、飛散量の予測を前年の着花状況から、目視で判断できる簡便手法の検討も進めています。



人工気象室での開花試験

◆今後の課題

スギの開花など生理に関しては未解明の部分が多く、システム開発ではその端緒をとらえたいすぎません。今後予測精度を高めるためには、更に研究を進める必要があります。



山形県の名水・湧水⑳

ぶな清水

東根市宮崎

案内図



この泉は、国道13号線のすぐ東側に湧き出ており、昔は良い水の乏しかった長瀬の母ともいうべき清水であります。
 この水の美味しさは格別で、病人がいまわのきわにぶなの水を飲んで死にたいと言われたと言われております。
 清水は、遠く沼沢沼に続き、時にはブナの葉がでたといわれ、そのため「ぶな清水」の名がついたと言われております。
 水温 年間を通して約10℃ (山形県森林協会)



山形県の古木・名木㉓

ほうだし
文下のケヤキ

鶴岡市大字文下

案内図



鶴岡市大字文下、五十嵐氏の宅地内にあり、八坂神社の神木として古来斧を入れることなく保存されてきた。
 主幹は、東北方へ約七十度ばかり傾いており、従って西南面は八十度根上りとなっている。
 根周は十一呎、目通り幹周は八・八呎、地上六呎のところまで三方に分枝し、樹勢は極めて旺盛で、樹高はおよそ二十八呎におよぶ。樹齡は八百年から九百年と推定される。昭和二十六年六月九日国指定天然記念物に指定されている。(山形県森林協会)

木と暮らしを考えるフォーラム開催のご案内

テーマ「暮らしに生かそう やまがたの杉」

日時 平成十四年二月二十三日(土)

十三時～十六時

主催 最上村山・置賜・庄内

流域林業活性化センター

場所 新庄市生涯学習センター

「新庄市民プラザ」

新庄市大手町一六〇

☎〇三三三―三三―四二〇〇

フォーラム

てい談

森 巖夫氏

(明海大学教授・コーディネーター)

田家 邦明氏

(山形県専門委員)

酒井 天美氏

(山形県森林審議会委員)

事例発表

佐々木文彦氏 (建築家)

安部 政昭氏

(木づくりの家やまがたネットワーク専務理事)

◆山形の森林と木を何とかしたい!◆

森林からの恵み、その中で一番大きな循環資源の「木」

ほんの二、三十年前まで私たちが身の回りにたくさんあった木づくりのものは、今の暮らしの中にあるでしょうか。また、地域から生まれた木を使っているでしょうか。

てい談と事例発表を基に、木と暮らしについて考えてみませんか。

◆参加費無料◆

◆問い合わせ・申し込み先◆

村山総合支庁森林整備課

☎〇三三三―六二―八二八三

最上総合支庁森林整備課

☎〇三三三―二八―七七二

置賜総合支庁森林整備課

☎〇三三三―二六―六〇六三

庄内総合支庁森林整備課

☎〇三三三―六六―二二二七

(三流域林業活性化センター)

平成十三年度の発表会が左記のとおり開催されますので、ご参加ください。

一、日時

平成十四年二月二十八日(木)

十時～十七時

二、会場

山形国際交流プラザ

(山形ビッグウイング)

山形県治山・林道

研究発表会のご案内

平成十三年度の発表会が左記のとおり開催されますので、ご参加ください。

一、日時

平成十四年二月二十八日(木)

十時～十七時

二、会場

山形国際交流プラザ

(山形ビッグウイング)

三、参加者

四階中会議室

県及び市町村の関係職員

治山・林道技術関係団体ほか

四、主催

山形県、山形県森林協会

五、問い合わせ先

山形県森林協会



21世紀の緑を美しく、
安らぎと輝きの森林と水を求めて



社団法人

山形県林業コンサルタンツ

理事長 菅原 六郎

山形市松栄一丁目5番41号 TEL (023) 647-1800


FAX (023) 647-1801

街に緑を 窓辺に花を

どなたでもお気軽に


確定利回りの1年貯蓄


半年複利の5年貯蓄



農林中央金庫 山形事務所

〒990-0042 山形市七日町3-1-11
☎(023)641-6271





—全国食用きのこ種菌協会会員—

〒999-7757
山形県東田川郡余目町払田字村東17-2



**株式会社
河村式種菌研究所**

お問い合わせは：電 話 0234(42)1122(代)
F A X 0234(42)1124
青森県営業所：青森県三戸町同心町 電話 0179(23)3582

きのこ 作りなら。

◎形質を誇る！

○しいたけ・なめこ

ひらたけ・まいたけ・ぶなほりたけ
くりたけ・たもぎたけ・むきたけ
その他きのこ種菌



素	樹材種	材長	品等	1m ³ 当り価格	前月比較		
	スギ小丸太	3.65~4.00m	込	11,700円	± 0		
スギ中丸太	//	//	16,100円	200			
スギ大丸太	//	//	19,300円	300			
材	米マツ中丸太	6.0m~	普通材	19,100円	± 0		
	米マツ大丸太	//	//	23,200円	± 0		
	北洋アカマツ中丸太	3.8~	//	17,500円	200		
製品	樹材種	厚	幅	長	品等	1m ³ 当り価格	前月比較
	スギ柱	10.5cm	10.5cm	3.00m	特等	60,000円	± 0
	米マツ柱	10.5cm	10.5cm	4.00m	//	57,200円	900

木材市況

(二月一日現在)

印刷所 渡辺活版所 定価 一部二一〇円

森林やまがた 2月号 平成14年2月1日発行 通巻第59号

編集 山形県森林協会 山形県
発行 山形県森林協会
〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内
TEL 023-631-6566 023-622-8823
FAX 023-631-6573

「ゆとり都」 森林課ホームページ <http://www.pref.yamagata.jp/ns/shinrin/index.html>
第53回全国植樹祭ホームページ <http://www.shokujusai-yamagata.jp>